

## 平成29年 第2回特別職報酬等審議会 議事要旨

- 1 日 時 平成29年4月27日(木) 午前10時～午前11時30分
- 2 場 所 市庁舎 議会棟3階 全員協議会室
- 3 出席者 稲葉委員、稲場委員、石山委員、金山委員、前田英司委員、前田敏委員、安田委員
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 (総務部)  
山崎総務部長、廣瀬職員監、山下職員課長、天池職員課長補佐  
(議会事務局)  
山上事務局長、滝沢事務局次長、佐藤総務課長、山中総務課長補佐

### 6 審議等内容

発 言 者	項 目	発 言 内 容
会長	あいさつ	省略
会長	審議の論点確認	これまで本審議会で議論されてきた内容を基に、4つの論点項目と2つの方向性について、順次審議を進めていきたい。
各委員		了承
事務局	事務局員紹介	省略
会長	追加資料	民間企業における役員報酬について資料の追加がある。事務局から説明願いたい。
事務局	説明	役員報酬について説明
会長		資料について質問があればお願いしたい。
各委員		特になし

会長		特になければ、1つ目の論点「市長及び副市長の職務・職責」について、各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	<p>質と量（時間）の両面を見ていくことが必要。質の面で言えば、市長は、将来的なまちづくりの方向性を決め、方針を立て、5年後、10年後、20年後を考えて市政を執行しなければならない立場であり、帯広市の都市規模でさえ人口対策が必要になることは、昔なら考えられなかったことである。</p> <p>量の面では、総理大臣の動静のように新聞で詳細に確認できる状態ではないが、土日のイベントで挨拶することも多く、終日休みになる日は少ないと思う。</p>
委員	意見	市長は行政執行した結果に対する責任を負っている。結果が伴わないと裁判で訴えられるリスクもあることは議員とは異なる。その結果が報酬にも反映されるものと考えている。
委員	意見	土日の休みは、年間何日かしかないと聞いている。
会長	意見	<p>質の面では、人口が減る中であっては、例えば、ある年齢層の女性が都会に出ていかずに、帯広市に一定数住み続けられる魅力ある町にするなど、これまでの市政に求められていなかったことを、長期的な視点を見据えて、今後ますます考えていかないとならない。</p> <p>量の面では、皆さんの発言でも分かるように、多忙に職務に従事しているものと思われる。</p>
会長		次に、2つ目の論点として、「市長及び副市長の職務・職責のほか、他都市との均衡などを踏まえ、現在の給料の本則額をどう評価するか」について、各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	<p>平成7年から平成25年までの本審議会においては、「客観的に適切な額が決定されるべき」、「生活給の要素も勘案」、「市民生活の実態、道内各自治体の現状、一般職員とのバランスなどを考慮」といった意見がある。</p> <p>人口規模が類似している市町村と比較して、給料の額は中位からやや上のほうに位置しているが、手法としては、そういった手法を使っていかがるを得ないのではと考える。</p>

会長	説明	過去には本則額を下回る減額支給がされていたが、今回は本則額をしっかりと支給すべきであると考えの基に答申がされた。
委員	意見	1つ目の論点でも話があったが、財政が厳しいなど、いろいろな要因で減額支給されていたことも、行政執行の結果の表れであると言える。
委員	質問	釧路市や旭川市などでは減額支給しているが、事務局で何かその理由を把握しているか。
事務局	回答	各自治体から直接聞き取りしてないが、財政や不祥事などの要因により、各自治体独自の判断で本則額でない額が支給されているものと思われる。
委員	質問	市民が市長に直接意見が言える「市民の手紙」という制度があるが、今まで市長の給料額についての意見はあったのか。
事務局	回答	その職務に2年数か月たずさわったことがあるが、その間はそういった意見はなかった。
委員	意見	市民にとって、市長は雲の上のような存在で、あまり給料額にまで興味がないのかもしれない。支給額については、結果が全てであるとすれば、他市と比較して、5万、10万高くなったとしても問題ない考える。
会長	意見	現在の額は中庸といったところ。決して高いといった実感はない。
委員	意見	市長の行動量は、良く市民に見えていると感じる。
会長		次に、「市長及び副市長の給料の額の改定の方向性」について、答申に向けた方向性を見定めながら、各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	現在の職務・職責やその他の状況を考えると、額を下げる要素を説明することはできない。逆に、額を上げなければ、市長の責務を果たせないとか、他市と比較して額が低いとも言えない。よって、現状維持が妥当である。
委員	意見	現在の市長は平成22年から7年在職し、この間の働きぶりを拝見している限り、減額との判断にはならないのではないかと。 一方、上げるとなると、他市との比較で頭一つ飛び出ることになり、市民の感覚としても難しい

		面があるので、現状維持になるのではないか。
委員	意見と質問	市長には是非知事という話が出るほど頑張っており、増額してあげたい気持ちもあるが、市民感覚としてどうか。ちなみに、帯広市の財政状況はどういう状況か。
事務局	回答	財政はいつの時代も厳しい状況であると認識している。
委員	意見	議員として4年、近くで接する機会があったが、オール十勝でフードバレーとかちを推進するなど、以前と比べて行動範囲や活動が格段に増えている印象。よって、額を下げる方向にはならず、現状維持で良いのではないかと考える。
委員	意見	現状維持で良いと思う。
委員	意見	現状維持で良いと思う。
会長	意見まとめ	皆さんの話を総合すると、額を上げる方向を考えなくはないが、市民感情や他市との比較、財政状況なども総合的に考えると、現状維持ということだが、そのような方向性で良いか。
各委員		了承
会長		次に、3つ目の論点「議員の職務・職責」について、各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	議員の活動実態が市民には見えてこないのが、報酬額が高いのか安いのか分からない。私がお会いした議員は、選挙期間中を含めて29人中2人しかいない。選挙区が地区別に分割されている訳でもなく、全市を活動範囲としていることも理由であると思う。 また、昔と比べて専門の議員が多く、額が低いと議員のなり手がいなくなるという問題もある。
委員	意見	議員活動には、第一に、議会の本会議や委員会への出席や会派での視察があり、いずれも帯広市と他市の状況を資料や聴き取りなど事前に調査することが必要である。また、市民団体や地域からの相談、小中学校の運動会や防災などの行事への参加もある。これらの活動をブログや野遊会などで市政報告している議員もいる。

委員	質問	議員の活動量について、平成27年より議員が3名減少した影響はあるのか。
委員	回答	私は3名減となった現在の議員定数の時期に在職はしていないが、やはり一人あたりの職責や活動範囲は広がったと思う。
委員	質問	帯広は人口6千人あたりの議員が1人だが、他市の議員一人あたりの人口は。
事務局	回答	人口が同規模の釧路市は6,300人、苫小牧市は6,200人。規模が大きい函館市は8,900人、旭川市は10,100人、規模が小さい北見市は4,300人とであり、人口規模に連動しているといえる。 なお、帯広市の議員定数は36人から32人、そして29人と減っている。それに伴い常任委員会の構成人数も9人から7人に減少しているが、その中では以前にも増して、一人ひとりが活発に議論に参画していると感じる。
委員	意見	一市民としては、運動会に議員が参加しているかどうかは分からない。また、議員が相談を受けた後、どのような改善がされているかは見えていないと感じる。
委員	意見	私も同じように思っている。地域活動もあるかもしれないが、議員の職務は、議会での活動に集約される。議会内で市長とどのように対峙し、どのような結果となったのか。議員の活動は見えない。
委員	意見	議員は、一般の市民とどのように接点を作っていくか。一つは地域活動を通じてということだと思うが、皆さんの意見からも言えるのは、これからどうやって接点を広げていくかということ。
会長	意見	市全体では29名の議員がいる。議員が地区割りで担当を持っている前提であれば、もっと簡単なことかもしれない。市民との接点のあり方を含めて、もう少し工夫が必要と感じる。
委員	意見	冒頭にもお話したが、議員の働く姿が見えないのが課題である。そもそも見えにくいシステムなのかもしれない。自分の後援組織でいくら報告会をやったとしても、うがった見方をすれば次回選挙の票集めだろうと評価されてしまう。必ずしも議員側の問題だけではない。
委員	質問	議員政策研究会を新たに設置したようだが、その経緯と中身はどのようなものか。

事務局	回答	議会には市長の予算執行をチェックする役割がある。これまでも、各常任委員会で調査研究項目を議論し、政策提言も行っているが、今年、さらに一歩踏み込んで、政策を条例案として提案することも視野に入れ、研究会を立ち上げたところ。
委員	質問	研究会のメンバーは。また、その活動は広報誌で確認できるのか。
事務局	回答	メンバーは決まっていないが12名で組織する予定。活動内容は広報誌と一緒に配付される議会だよりでお伝えしていきたい。
会長		次に、4つ目の論点「議員の職務・職責のほか、他都市との均衡などを踏まえ、現在の議員報酬の本則額をどう評価するか」について、各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	議員の活動が見えにくいため、報酬額を上げる理由も下げる理由も見当たらない。
委員	意見	私もその意見に賛成の立場である。専門の議員が多くなり、生活給の色合いが濃くなってきているが、一人ひとりの活動実態も分からないため、額を改定する理由がない。
会長		次に予定していた「議員報酬の額の改定の方向性」についても意見が出されたので、方向性もあわせて各委員から意見をいただきたい。
委員	意見	私は帯広市のためにも下げた方が良くと思う。専業か兼業かという議論もあったが、報酬ありきの議員ではないと思う。
委員	意見	現状維持で良いと思う。
委員	意見	現状維持でも構わないが、活動が見られていること、市民の厳しい意見があることについて、議員には考えてもらい、やるべきことをやっていただきたい。
委員	意見	現状維持で良いと思うが、質を高めていくのは大事なことである。厳しい意見は意見として受け止めてほしい。

会長	意見まとめ	皆さんの話を総合すると、人口減少社会への対応など、市民の意見を市政に反映させる議員の役割も増している中で、その職務・職責に対する報酬額は現状維持でも良いのではないかということだが、議員の皆様には、市民との接点を持ち、市民理解を得る取り組みが求められていることから、市民への報告手法は工夫していただきたい。そういう活動が評価されることもつながる。
会長	質問	個々の議員がどのように活動を報告したり、情報を発信しているかが取りまとめられたものはあるか。
事務局	回答	市議会としての活動は資料として取りまとめられている。また、地域での活動などは、ホームページを開設し、個々に情報発信している議員もいる。
委員	意見	ホームページがない議員の方も多いのかもしれない。活動報告を印刷して広く配布するのも費用が掛かり、難しい面がある。 また、答申案への記載はこれからのことだが、議員報酬を下げても良いのではといった議員への厳しい意見があったことは記録しておいて欲しい。
会長	まとめ	様々な議論をいただいたが、2つの方向性については、いずれも現状維持ということで良いか。
各委員		了承
会長		これまでの検討結果を基に、答申案のたたき台を作成し、事前に各委員に配付し、次回の会議で答申案の審議をすることとしてよろしいか。
各委員		了承
各委員	次回開催日時の調整	6月27日午前10時からに決定
会長		そのほか何かあるか。
各委員		(特になし)
会長	閉会	本日は長時間議論いただき、ありがとうございました。